

福岡市にある三菱電機パワーデバイス製作所。10月上旬、熊本高専熊本キャンパス(合志市)の制御情報システム工学科の3年生42人が、電力制御などに使うパワー半導体の製造現場の見学を訪れた。

3月に産学官で設立した「九州半導体人材育成等コンソーシアム」と連携した取り組み。同高専の國安征希さん(18)は「熊本市は「半導体の理解が深まった。進路先の候補になりそうだ」と話した。

熊本高専は本年度から長崎県の佐世保工業高専とともに、国立高等専門学校機構が始めた半導体人材育成事業の拠点校に選ばれた。製造プロセスを理解した人材を両校で年約60人輩出する計画で、来年度は他の九州・沖縄の7高専にも取り組みを広げる予定だ。

台湾積体回路製造(TSMC)をはじめ九州に半導体産業が集

育成急務 Uターンも期待



三菱電機パワーデバイス製作所でパワー半導体の製造工程を見学する熊本高専の学生ら＝6日、福岡市

不足する専門人材

波及
TSMC

進出表明1年 ㊦

2022・10・16

積する中、人材確保は大きな課題だ。とりわけTSMCの新工場では、画像センサーや自動車の電子制御ユニット(ECU)に組み込まれる回路線幅10〜20ナリ(ナは10億分の1)の先端半導体を生産予定。高度な知識を持つ人材が不可欠だ。

新工場を建設・運営するJASMに来春入社する新卒社員は約100人。その多くが地元大学の出身だが、人材の奪い合いを懸念する声が早くも聞かれる。熊本市のある企業は、来春入社で20人に内定を出したものの、5人がJASMへの入社を断り、JASMが途中から採用活動に参入した来春入社とは異なり、2024年春入社は最初から競合する」と不安げだ。

一方、県は24年4月、県立技術短期大学校(菊陽町)に半導体の新学科を開設する方針で、新たに機器を導入する計画。今後は職業訓練指導員の確保や教室整備を進めたい(労働雇用創生課)としている。

ただ、いずれの取り組みも人手不足解消の「特効薬」とはなりにくい。そこで県が力を入れるのがUターン人材の確保だ。7月、福岡市に「くまもと移住支援センター」の窓口を設置。就職支援協定を結ぶ県外大学への働きかけも強化しており、県商工政策課は「一度県外に出た有能な人材に戻ってもらい、熊本で力を発揮してほしい」。県外からの就職希望者に採用試験などで必要となる交通費を助成する事業も本年度から始めた。

民間企業でも専門人材育成の動きが目立ち始めた。製造系人材サービス大手の日総工業(横浜)は来春、大津町に研修施設を設け、半導体の製造設備の保全に通じた人材を中心に年間100人以上の育成を目指す。半導体製造装置などの売買を手がけるアスカインデックス(東京)も水俣市に研修センターを開設。9月から受講生の受け入れをスタートさせた。

TSMC進出を契機に、九州が再び「シリコンアイランド」として注目を浴びる中、九州経済調査協会(福岡市)の相川弘樹研究員は「さらなる集積を促すには人材の円滑な供給が鍵を握る」と指摘。地域全体の競争力を高めるため、「TSMCとの相乗効果で各企業の技術力を底上げすることが必要」と訴える。(田上一平)